

【小施策評価(平成29年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	学務教職員課	
施策	17	子どもの教育の充実	評価 責任者	紺野 好弘	内線 7320
小施策	17-2	幼稚園教育の充実	評価 シート 作成者	吉田 清光	内線 7321

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
子育て相談などの子育て支援, 小学校及び地域との連携, 保護者のニーズに対応した保育サービスの一層の充実を図る必要がある。	生涯にわたる人格形成の基礎を培うため, 望ましい幼児教育や教育環境を提供するするとともに, 保護者への支援に取り組む。また, 幼稚園と小学校, 地域との連携を深める。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
幼児・保護者	健やかな成長が図られる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成29年度実績)

実績値の推移				実績の評価																						
指標①	単 位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	問題点																					
保護者の満足度(市立幼稚園の保護者アンケートによる)	%	↗																								
当初値 (H25)	85.0	H31目標値	100.0	H36目標値	100.0																					
<table border="1"> <caption>実績値の推移 (保護者の満足度)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当初値 (H25)</td> <td>85.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>85.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>83.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>82.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H31</td> <td></td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>H36</td> <td></td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table>						年度	実績値	目標値	当初値 (H25)	85.0		H27	85.0		H28	83.0		H29	82.0		H31		100.0	H36		100.0
年度	実績値	目標値																								
当初値 (H25)	85.0																									
H27	85.0																									
H28	83.0																									
H29	82.0																									
H31		100.0																								
H36		100.0																								
			・園児に安心して幼稚園教育を受けさせることができた。	・毎日の遊びや生活の中で, 幼児ができるようになったことを褒めたり, 認めたりすることなど, 一人一人の幼児に寄り添った指導を継続してきたこと。 ・市立各園の要望にあった適切な予算配分を行ったこと。																						
			・幼児理解に基づく個の特性に応じた指導や, 幼稚園からの情報発信など教育環境の一層の充実に向けた施策の推進が必要である。 ・一部の幼稚園では, 園児の少人数化に伴い, 集団での遊びや体験の機会が減少し, 発達段階に応じた幼児教育が保障されにくい状況が生じている。 ・保護者の満足度が目標値を下回り, 低下傾向にある。	・幼児一人一人のよさや可能性の把握及び保護者への積極的な情報提供, 並びに小学校入学時を見通したきめ細かな取組が求められている。 ・保護者のニーズに対応した保育サービスの充実が求められているが, 市立幼稚園はいずれも園児の数が少なく, 最小限の人員で園を運営していることから, 様々な取組の拡大は難しい状況である。 ・園児数が極端に少ない幼稚園では, 体験や遊びの限定等により, 保護者の満足度が低下している。																						

今後の方向性(平成30年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…30年度着手済または着手予定 ☆…31年度以降の着手を検討
<ul style="list-style-type: none"> ★ 引き続き, 一人一人の子どもの性格や長所等を把握して, きめ細かな幼児教育を提供するとともに, 園だよりやクラスだよりを中心に情報発信を図る。 ★ スタートカリキュラムを活用し, 幼稚園教育と小学校教育の相互理解と円滑な接続, 交流活動の推進を図る。 ★ ☆1 幼児の数が極端に少なく, 学年の異なる園児の混合保育となっている幼稚園については, 発達段階に応じた幼児教育の保障が困難であることから, 閉園を検討する。 	